

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	あやかりの杜滞在型施設活用事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア		
担当部署名	生涯学習課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	Ⅲ-1-(1)						
事業内容	長期滞在型宿泊施設やキャンプ場等がある「あやかりの杜」を活用し、野外活動や沖縄の自然、伝統文化の学習等を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	5,000	6,041	4,000	5,000	5,000
		(b) 予算現額	5,000	6,041	4,000	5,091	5,000
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	91	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	5,000	6,041	4,000	5,091	5,000
	B. 執行済額		4,998	6,039	3,999	5,091	5,000
	うち交付金充当額		3,998	4,831	3,199	4,073	3,999
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	体験交流事業	目 標	(21事業)	(15事業)	(17事業)	(18事業)	
		実 績	21事業	22事業	17事業	8事業	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、講座内容の見直しや開催可能な講座の追加の検討を行ったが、開催できる事業が限られてしまい、目標を達成することができなかった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値 (年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値 (年度)
	体験交流人数	目 標	()	(390人)	(500人)	(550人)	()
		実 績		400人	607人	294人	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、人数制限を設けなければいけない状況となり、講座内容の見直しや開催可能な講座の追加を検討したが、開催講座が限られてしまい、目標人数を達成することができなかった。 ・受講希望者が多い事業も多くあったが、ソーシャルディスタンスの確保や施設利用ガイドラインに沿った内容で行わざるを得ない状況だったことや緊急事態宣言等により施設が活用できず、受講回数を増やすことも困難だったため、十分な体験交流人数を確保できなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・新型コロナウイルス感染症の感染状況に注視しながら、開催時期を選定する必要がある、講座について周知期間の不足などが生じた。 ・村内の民泊団体と連携し、県外の修学旅行生をターゲットとして講座を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により修学旅行が実施されずに県外の来客者に対する周知を行うことができなかった。 ・講座開講するにあたり、新型コロナウイルス感染症対策を取る必要があり、参加人数を制限する必要があるため例年よりも体験交流人数を増やすことができなかった。	・新型コロナウイルス感染症の感染状況に注視しながら、事業計画で設定した日程を機動的に行う必要がある。 ・感染防止対策を村内の民泊団体と連携して取り組むことで、安心して受講できる講座の周知を県外修学旅行生に対して行う必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症に関して講師スタッフの打ち合わせを事前に行い、アルコール設置や参加前の検温などの予防を実施し、万全の体制で講座を開催できる環境を整える必要がある。
今後の取り組み方針		
・新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドラインに沿った事業計画(講座)を立案し、感染状況を注視しながら、柔軟な日程確保に取り組む。 ・新型コロナウイルスの状況に注視し、感染対策を取りつつ、村内にある民泊団体と連携して、修学旅行生を対象とした体験講座を検討する。 ・万全な体制で新型コロナ対策(講師スタッフの事前打合せや消毒液の設置、参加前の検温等)に取り組むことで、講座数や交流人数の増加に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">総事業費</th><th rowspan="2">交付対象事業費</th><th colspan="2">交付金充当額</th><th rowspan="2">交付対象外経費</th></tr> <tr> <th>交付金</th><th>市町村負担金</th></tr> <tr> <td>5,000</td><td>5,000</td><td>3,999</td><td>1,001</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費	交付金	市町村負担金	5,000	5,000	3,999	1,001	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費												
		交付金	市町村負担金													
5,000	5,000	3,999	1,001	0												
北中城村 5,000千円 委託料 5,000千円 特定非営利活動法人 あやのふあ 5,000千円 あやかりの杜滞在型施設推進業務																
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明													
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、施設の指定管理者であり、当該施設に熟知していることを勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。 ・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。 ・費用や使途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。													
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。														
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。														
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。														

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	北中城まつり活性化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア		
担当部署名	企画振興課		事業実施(予定)年度 平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	北中城村まつり活性化委員会において、新型コロナウイルス感染症に対応したまつりの開催方法を検討する。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(3年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	予算の状況	(a)当初予算額	21,241	24,141	11,657	16,533	16,744
		(b)予算現額	21,241	24,141	12,719	16,533	465
		(c)増減額(b-a)	0	0	1,062	0	▲ 16,279
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	21,241	24,141	12,719	16,533	465
	B. 執行済額		21,095	22,484	12,066	10,324	463
	うち交付金充当額		16,876	17,986	9,652	8,259	370
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.3%	93.1%	94.9%	62.4%	99.6%
予算の状況の説明		新型コロナウイルス感染症の拡大により、三大まつりがすべて中止となり、会計年度任用職員に係る経費を除いた16,279千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	まつり開催方法の検討	目 標	()	()	()	(検討)	
		実 績				検討	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	・新型コロナウイルス感染症の拡大により、全てのまつりの中止を決定した。 ・まつり活性化委員会を開催し、次年度の開催に向けた新型コロナウイルス感染症対策や開催基準について検討を行った。 ・会計年度任用職員については、まつりの開催方法に関する検討資料の作成、まつり活性化委員会の開催準備等に携わった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R3年度)
	まつり開催方法の決定	目 標	()	()	()	(開催方法の決定)	()
		実 績				開催方法の決定	
	【R3成果目標】 青年エイサーまつり来場者数 北中城まつり来場者数	目 標	()	()	()	()	(7,400人 24,000人)
		実 績					
	進捗状況説明	・新型コロナウイルス感染症対策として、来場者の密集を避けるため、リモート開催や入場制限等の対応を確認した。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・新型コロナウイルス感染症に係る新規感染者の誘発や集団感染（クラスター）を誘発する恐れがあるため、来場者が密集しないまつりを検討する必要がある。 ・まつり中止により、伝統芸能を披露する場が失われ、保存・継承ができず衰退することを防ぐため、まつり開催方法を検討する。	・感染者発生時の対策としてまつり来場時に氏名、連絡先の把握をする必要がある。 ・来場者へまつり参加時の感染予防の周知を図る必要がある。 ・予防措置を明確にし、出演者と出店者に遵守してもらう必要がある。 ・伝統芸能の保存・継承が図れるよう、これらを披露する場を確保するため、無観客でも開催できる方法を検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
・感染状況を踏まえ、十分な感染防止策を講じたうえで、3大まつりの開催に取り組み、まつりを通じた伝統芸能の保存・継承及び地域活性化を継続して実施する。 ・各まつりにおいて開催基準、出演者・出店者・来場者の感染防止マニュアル等作成を行い対策を徹底する。 ・「緊急事態宣言」等発令時や感染者数に応じて、まつり会場に集客せず動画配信でのまつり開催を検討するなど、伝統芸能を披露する場の確保に努める。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>463</td><td>463</td><td>370</td><td>93</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	463	463	370	93	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
463	463	370	93	0										
北中城村 463千円 報酬 410千円 会計年度任用職員報酬 1名 410千円 職員手当等 53千円 会計年度任用職員期末手当 1名 53千円														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・会計年度任用職員は面接等を経て採用しており、妥当であったと判断する。 ・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。 ・会計年度任用職員の費目・使途については、業務日誌等で確認しており、目的に即し、必要であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	観光誘客プロモーション事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ	
担当部署名	企画振興課		事業実施(予定)年度	平成26～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開	
	Ⅲ-1-(1)						
事業内容	村内への観光誘客を図るため、多言語による観光案内や観光イベントでのプロモーションを実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	予算の状況	(a)当初予算額	22,200	53,100	44,531	46,307	43,440
		(b)予算現額	24,354	52,532	44,531	46,307	43,368
		(c)増減額(b-a)	2,154	▲ 568	0	0	▲ 72
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		24,354	52,532	44,531	46,307	43,368
	B. 執行済額		23,813	48,698	43,951	45,019	41,156
	うち交付金充当額		19,050	38,958	35,160	36,015	32,924
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		97.8%	92.7%	98.7%	97.2%	94.9%
予算の状況の説明		不用額2,212千円については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言に伴い、観光案内所が入居している大型商業施設の休業による案内所賃借料の減免等により委託料が減額したことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	多言語観光案内業務の実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	観光イベントでのプロモーション	目標	(国内:2回 国外:2回)	(国内:2回 国外:2回)	(国内:1回 国外:1回)	(国内:1回)	
		実績	国内:2回 国外:2回	国内:2回 国外:2回	国内:2回 国外:1回	国内:1回	
	メディアプロモーション	目標	()	()	(実施)	(実施)	
		実績			実施	実施	
	達成状況説明	・英語、中国語に対応可能なスタッフが、本村の観光名所や飲食店、観光施設等の観光案内を実施した。 ・ツーリズムEXPOジャパンin沖縄にて、本村で推進しているテレワークのプロモーションや観光案内所トラベルマートきたポでの取組みについて観光情報の発信した。 ・北中城村観光協会の公式Youtube(ライカムチャンネル)を活用し、本村の観光情報を発信した。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度
PRブース来場者数		目標	()	()	()	(1,700人)	()
		実績				2,000人	
観光案内所利用者数		目標	()	()	()	(14,000人)	()
		実績				5,590人	
進捗状況説明		・沖縄で開催された世界最大級のプロモーションフィールド「ツーリズムEXPOジャパン」にて、PRブースを出展し北中城村の観光ならびにワーケーションのプロモーションを展開、企業・個人合わせて2,000人が本村のブースに訪れ、目標を達成することができた。 ・イオンモール沖縄ライカム内にある観光案内所は新型コロナウイルスの影響を受け観光客等の来店が減少したことが影響し、目標値に届かなかったものの、店内イベントを3回実施するなど誘客に努め、村内周遊を促した。 ・北中城村公式Youtuberによる動画RYCOM CHANNEL(100本)を製作し、村の周知に努めた。(チャンネル登録者数:1,260人)					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とした移動制限措置等がとられる中、入域観光客の減少は今後も続くことが想定され、村内の観光業ならびに観光施設は今後も厳しい経営環境にある。	・これまで個人旅行者を中心に観光PRを行ってきたが、今後は企業や地元の方々を対象としたテレワークやワーケーションプランの提案を行い、本村での滞在期間の延伸を図り、域内消費額の増加を図る必要がある。
今後の取り組み方針		
・ワーケーションの推進を重点的に取り組むため、企業向けワーケーションプランの開発を進める。 ・村内のテレワーク施設やワーケーションプランを実施する観光事業者のPRに努め、本村への誘客を図る。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）				
北中城村 41,156千円 報酬 1,917千円 会計年度任用職員 1名 1,917千円 職員手当等 270千円 会計年度任用職員期末手当 1名 270千円 旅費 36千円 会計年度任用職員通勤手当 1名 36千円 需用費 24千円 JAおきなわSS 24千円 （車両燃料費） 委託料 38,500千円 （一社）北中城村観光協会 38,500千円 （観光誘客プロモーション業務） 使用料及び賃借料 409千円 トヨタレンタリース 409千円 （車両リース）				
資金の流 れ・費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、村内事業所等との連携が不可欠であり公共性が求められることから、村観光協会で妥当であったと判断する。 ・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。 ・費目・使途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要であったと判断する。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	観光周遊バス実証事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部署名	企画振興課		事業実施(予定)年度	平成30～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	村内への観光誘客を図るため、大型商業施設と世界遺産中城城跡を結ぶ周遊バスの実証実験を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a)当初予算額	5,505	17,094	25,589		
		(b)予算現額	5,301	16,790	29,537		
		(c)増減額(b-a)	▲204	▲304	3,948		
		(d)繰越額	-	-	-		
		A.計(b+d)	5,301	16,790	29,537		
	B.執行済額		5,253	16,235	29,112		
	うち交付金充当額		4,202	12,987	23,289		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		99.1%	96.7%	98.6%		
予算の状況の説明		・周遊バスの増便に伴い、運行委託料を3,948千円増額補正した。 ・425千円の不用額については、運行委託料の精算によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)			達成状況			
				H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	運行日数	目標	()	()	()	(350日以上)	
		実績				363日	
	公共交通会議の開催	目標	()	()	()	(3回)	
		実績				2回	
達成状況説明	・台風による運休を除き、計画通りの運行日数を達成することができた。 ・公共交通会議については、有償運行に向けた検討を行うため、当初3回を予定していたが、委員の合意形成が順調に進んだことで、2回の開催で済むことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	年間利用者数	目標	()	実証実験準備の完了	(10,800人)	(22,000人)	()
		実績		実証実験準備の完了	2,345人	4,712人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	ホームページや独自のサイト、Google Mapsによるバスのリアルタイム接近案内、広報誌への時刻表掲載といった利便性の向上や村観光協会と連携し、周遊バスを使った観光スポットを紹介する動画を配信するなどの周知に取り組んだが、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数は伸び悩み、目標値の21%程度となった。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・バス位置情報システムや検索エンジン等を活用し利便性の向上に努めたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、県内入域観光客数の減少や地域住民の外出機会の減少により、利用者数が伸び悩む要因になったと考えられる。 ・有償による実証実験を予定していることから、利用者の増加に向けた取組みが必要である。	・バス位置情報システムや検索エンジンの改善を図り、更なる利便性の向上に取り組む必要がある。 ・コロナ禍でも利用者数の増加を図るため、安心・安全な公共交通をPRする必要がある。 ・有償でも周遊バスを利用してもらえるよう、観光客や地域住民への周知広報や改善点の検証に取り組む必要がある。
今後の取り組み方針		
・バス位置情報システムや検索エンジンに乗車状況を発信することで、利便性の向上に取り組む。 ・消毒液の設置やマスク着用の注意喚起、運行前の消毒作業を行い、新型コロナウイルス感染症対策を徹底することで、安心して利用できる周遊バスに取り組む。 ・これまでの無償と有償による実験結果を踏まえ、本格運行に向けた検討を行う。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29,112</td><td>29,112</td><td>23,289</td><td>5,823</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	29,112	29,112	23,289	5,823	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
29,112	29,112	23,289	5,823	0										
<pre> graph LR A[北中城村 29,112千円] --> B[報酬 70千円] A --> C[旅費 17千円] A --> D[委託料 26,124千円] A --> E[使用料及び賃借料 2,901千円] B --> B1[委員報酬(9人) 70千円] B1 --- B1_note[北中城村地域活性化公共交通会議] C --> C1[委員費用弁償(9人) 17千円] C1 --- C1_note[北中城村地域活性化公共交通会議] D --> D1["(株)中央建設コンサルタント 6,985千円"] D --> D2["(株)セノン 沖縄支社 19,139千円"] D1 --- D1_note[観光周遊バス実証実験業務] D2 --- D2_note[観光周遊バス運行业務] E --> E1["(株)スマイル 2,901千円"] E1 --- E1_note[観光周遊バス賃貸借業務] </pre>														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者や賃貸借業者は、指名競争入札やプロポーザルで選定しており、妥当であったと考える。 ・不用額は、事業費の5%以内であり、適正な規模であったと考える。 ・費目及び使途については、事業完了時に検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	リュウキュウマツ保全事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-イ		
担当部署名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成28～令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	花と緑あふれる県土の形成		
事業内容	北中城村の景観・美観を創出・継承するため、県木であるリュウキュウマツの計画的な薬液樹幹注入及び伐倒処分を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
		(a)当初予算額	5,867	5,940	5,700	1,800	1,800
		(b)予算現額	5,867	5,940	5,301	1,898	160
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲ 399	98	▲ 1,640
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	5,867	5,940	5,301	1,898	160	
		B. 執行済額					
		5,829	5,940	5,301	1,898	160	
		うち交付金充当額	4,663	4,752	4,240	1,518	127
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
執行率(%) (B/A)	99.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明	当初、5本の被害木の伐倒を計画していたが、そのうち3本が作業困難な場所にあったため、1,640千円を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
	被害木の伐倒駆除		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		目標	()	(5本)	(5本)	(5本)	
		実績		15本	7本	2本	
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	伐採箇所について、当初は例年の実績を考慮し5本を計画していたが、3本は伐倒作業が困難な場所にあり、2本のみとなった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	予防達成率	目標	()	()	(90%)	(90%)	()
		実績			89.3%	89.5%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	可能な限り被害木を伐倒したことで、村内のリュウキュウマツ943本のうち健全木が844本となり、予防達成率が89.5%となったことで、成果目標を概ね達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・予防達成率を90%以上とするため、健全木の状況を把握し、健全木の全体数を増やす必要がある。 ・被害木の伐倒については、作業困難な危険箇所も含まれることから、その選定については、景観を考慮し、公園や人通りが多い箇所等を優先に行う必要がある。	・健全木の状況を更新し、早期に薬剤注入による松くい虫被害を抑制することで、健全木の増加に取り組む必要がある。 ・被害木の伐倒については、景観を損なう恐れがある場所(公園や道路、人通りが多い場所等)を優先して処理する必要がある。
今後の取り組み方針		
・分布マップを更新し、新たな健全木への薬剤樹幹注入に取り組む。 ・公園や村道等の被害木の伐倒を優先的に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>160</td><td>160</td><td>127</td><td>33</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	160	160	127	33	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
160	160	127	33	0										
北中城村 160千円 委託料 160千円 (有)海邦造園 160千円 〔 枯れ松伐倒作業 〕														
資金の 使途の 流れ、 点検 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、村契約規則に則って随意契約により選定しており妥当であったと考える。 ・予算規模は、複数者から見積りをとって決定しており、妥当であったと考える。 ・費目や使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦	観光情報インフラ整備推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ		
担当部署名	企画振興課		事業実施(予定)年度 平成28～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	村内への観光誘客を図るため、情報アクセスポイントの運営並びにビッグデータ分析を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	予算の状況	(a)当初予算額	18,023	24,728	9,944	10,129	9,568
		(b)予算現額	18,023	23,739	9,944	10,129	9,568
		(c)増減額(b-a)	0	▲ 989	0	0	0
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	18,023	23,739	9,944	10,129	9,568
	B. 執行済額		17,659	23,684	7,927	10,043	8,760
	うち交付金充当額		14,127	18,947	6,341	8,034	7,008
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.0%	99.8%	79.7%	99.2%	91.6%
予算の状況の説明		不用額808千円については、委託業務の精算に伴うものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
				H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	観光情報アクセスポイントの運営	目 標	()	()	(実施)	(実施)	
		実 績			実施	実施	
	ビッグデータ取得及び分析	目 標	()	()	(実施)	(実施)	
		実 績			未実施	未実施	
達成状況説明	・村内の公共施設や観光施設、飲食店等に設置している公衆無線LANの管理運営(46か所)や新規施設への設置(2か所)を行った。 ・ビッグデータ取得及び分析については、観光客や利用者の性別・年代・Wi-Fi利用場所等から傾向やニーズ等を明確にし、観光コンテンツへと繋げること、新型コロナウイルス感染症における施設利用者の集中エリア公表や感染対策ポイントの明確化にデータ活用ができるか等を観光情報インフラ整備委員会において検討中であり、未実施となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	free Wi-Fiアクセス数	目 標	()	()	()	(8,500/月)	()
		実 績				6,525/月	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
進捗状況説明	・新型コロナウイルス感染症の影響により、村内観光施設や宿泊施設、大型商業施設の国内外観光客の利用が減少したが、SSID名を簡素化し利用者が検索するのを容易にし、Wi-Fiへのアクセス手順の簡素化に取り組んだことで、目標値の76%となり、概ね達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・既に設置している主要な施設等では、公衆無線LANが順調に稼働しているが、新型コロナウイルス感染症等の影響により、設置していた飲食店が複数閉店したため、新規施設への設置を進める必要がある。 ・ビッグデータ取得及び分析について、データの活用方法等を検討するため、未実施となっている。	・引き続き、公衆無線LANのアクセスポイントを運営し、新規施設の開拓を進めながら、利便性向上について検証、SNS等での情報発信強化により、村内を訪れる観光客等の利便性向上を図り、観光誘客に努める。 ・Wi-Fi利用者のマッピングデータ（性別・年代・アクセス場所）を活用し、利用者の傾向やニーズ等を明確にし、本村のゴールデンゲートを作成し、観光コンテンツに繋げる必要がある。
今後の取り組み方針		
・引き続き、ポータルサイト、公衆無線LANの利便性向上を図り、Wi-Fi利用者のマッピングデータから村内観光動向の把握及び利用者のニーズに合った観光サービス向上に取り組む。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8,760</td><td>8,760</td><td>7,008</td><td>1,752</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	8,760	8,760	7,008	1,752	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
8,760	8,760	7,008	1,752	0										
北中城村 8,760千円 委託料 8,760千円 （一社）北中城村観光協会 8,760千円 観光情報インフラ整備推進業務														
資金の 使途の 流れ、 点検 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、随意契約により選定しているが、村内観光施設や店舗等との連携が不可欠であり、妥当であると判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は、委託事業者からの見積もりを踏まえ設定しており、適正な規模であると判断する。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・Wi-Fi設置店等については、回線費を店舗等が負担しており、負担関係は妥当であると判断する。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目・使途については、精算段階で検査をしており、目的に即し必要なものであると判断する。											

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑧	多言語観光案内サイン整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ	
担当部署名	企画振興課		事業実施(予定)年度	平成30～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開	
事業内容	Ⅲ-1-(1)						
事業内容	外国人観光客の利便性・安全性の向上を図るとともに、観光スポットへ誘導し、本村を周遊することを目的に、多言語観光案内板を設置する。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(4年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	9,374		14,658		
		(b) 予算現額	9,374		13,530		
		(c) 増減額 (b-a)	0		▲ 1,128		
		(d) 繰越額	-		-		
		A. 計 (b+d)	9,374		13,530		
	B. 執行済額		8,856		13,530		
	うち交付金充当額		7,084		10,824		
	次年度繰越額		0		0		
	執行率 (%) (B/A)		94.5%		100.0%		
予算の状況の説明		多言語観光案内サイン設置業務の入札結果を踏まえ、1,128千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	多言語観光案内板の設置	目標	(4基)	()	(10基)	()	
		実績	4基		10基		
	周辺案内板の設置	目標	(3基)	()	(3基)	()	
実績		3基		3基			
達成状況説明	設置計画に基づき、多言語観光案内板を10基、周辺案内板を3基予定通り設置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R4年度)
	多言語観光案内板設置完了	目標	()	(4基)	()	(10基)	()
		実績		4基		10基	
	周辺案内板設置完了	目標	()	(3基)	()	(3基)	()
		実績		3基		3基	
	【R4成果目標】 多言語案内板等の設置により、主要観光施設への外国人観光客の来場者数の推移を基に、利便性の向上が図られたかどうか検証していく。	目標	()	()	()	()	(利便性向上)
		実績					
進捗状況説明	年度内に全ての観光案内板と周辺案内板の設置が完了し、予定通り目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・設置予定箇所に隣接する道路拡張工事等の影響により、目視できる位置へ設置箇所を変更するなどの対応により、令和2年度までに全体の88%（22基/全25基）の設置が完了することができた。	・複数年かけて整備していく事業であるため、外部環境の変化もあることから、観光客等の動線を常に意識し、観光施設への適切な誘導を促進するための最適な設置箇所の検討が必要である。
今後の取り組み方針		
・今後はアフターコロナにおける落ち込んだ観光需要回復に向けた周遊を促す施策の展開を図る。 ・村で製作する観光マップ等に多言語観光サインの設置個所を落とし込み、観光施設への誘導を促す。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>13,530</td><td>13,530</td><td>10,824</td><td>2,706</td><td>0</td></tr> </table> 北中城村 13,530千円 委託料 13,530千円 オリエンタルコンサルタンツ 13,530千円 多言語観光案内サイン設置業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	13,530	13,530	10,824	2,706	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
13,530	13,530	10,824	2,706	0										
資金の流 れ・費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。 ・不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。 ・費目や使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	アワセゴルフ場地区歴史・まちづくり映像保存事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア		
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24～令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	早期の事業着手に向けた取組		
事業内容	駐留軍用地「アワセゴルフ場」の返還合意から土地利用に至るまでの過程を歴史文化として継承するため、映像記録及び編集を実施する。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(3年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,000	1,100	1,000	1,074	1,298
		(b) 予算現額	1,000	1,050	1,000	1,074	1,298
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 50	0	0	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計 (b+d)	1,000	1,050	1,000	1,074	1,298
	B. 執行済額		996	1,050	998	1,074	1,298
	うち交付金充当額		796	839	798	859	1,038
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		99.6%	100.0%	99.8%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	記録映像撮影の実施	目標	()	()	()	(実施)	
		実績				実施(2回)	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・今年度は、事業最終年度となることから、駐留軍用地からの開発後の状況を記録するため、地上及び上空からの撮影を各1回ずつ撮影したことにより、ゴルフ場から新しいまちとへの変化が分かりやすく映像記録として残すことができた。 ・過年度の成果を総集編としてまとめ、これまで記録した貴重な歴史文化となる資源を映像として残すことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R3年度)
	全体の記録映像の作成進捗率	目標	()	(78%)	(89%)	(100%)	()
		実績		78%	89%	100%	
	【R3成果目標】 村HPアクセス数	目標	()	()	()	()	(660回)
		実績					
	進捗状況説明	・まちづくり状況の変化を開発事業期間とあわせて映像記録とすることで、駐留軍用地から新たなまちづくりにおける過程を記録として残すことができた。 ・まちづくりの歴史の周知に向けた村観光協会サイトへのリンクバナーの掲載については、本事業の成果品が完了した時点で、当該協会ホームページ内の構成に係る調整を行い、周知に向けた準備に取り組んだ。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・開発後のまちなみを分かりやすく伝える目的として上空からの動画撮影を実施するも隣接する駐留軍用地付近での上空撮影の申請は規制等により、撮影実施日の選定に苦慮した。	・駐留軍用地付近での上空撮影は、沖縄防衛局と米軍、警察との調整を必要とし、期間を要すことから早めの協議が必要である。また日数制限等も条件となることから、天候等も十分検討し、撮影時期やできるだけ多くの撮影予備日を設ける協議が必要である。
今後の取り組み方針		
・村HPや観光ポータルサイト(きたぼ)で公開することで、多くの方に周知ができるよう取り組む。 ・返還予定の駐留軍用地もあることから、今後の跡地利用の参考資料となるよう継承する。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>1,298</td><td>1,298</td><td>1,038</td><td>260</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,298	1,298	1,038	260	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,298	1,298	1,038	260	0										
北中城村 1,298千円 委託料 1,298千円 株式会社 シネマ沖縄 1,298千円 （ アワセ土地区画整理事業 歴史・まちづくり映像保存業務 ）														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は随意契約により選定しているが、実績を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。 ・不用額はなく、適正な規模であったと考える。 ・費用や使途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	キャンプ瑞慶覧特定駐留軍用地推進基金事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア		
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	早期の事業着手に向けた取組		
事業内容	キャンプ瑞慶覧ロウワープラザ地区の跡地利用を推進するため、これまで積み立てた基金を活用し公有地の先行取得を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	3,000	3,372	2,537	1,710	1,683
		(b)予算現額	2,894	3,702	653	1,144	1,442
		(c)増減額(b-a)	▲106	330	▲1,884	▲566	▲241
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	2,894	3,702	653	1,144	1,442
	B.執行済額		2,688	3,701	652	1,143	1,441
	うち交付金充当額		2,150	2,960	521	915	1,153
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		92.9%	100.0%	99.8%	99.9%	99.9%
予算の状況の説明		・公有地の先行取得に向けて申出者を募った結果、想定していた申出数を下回ったことにより、買取交渉等に係る委託料を206千円、収入印紙代を35千円減額補正した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	公共用地の取得	目標	(2,679㎡)	(1,206㎡)	(902㎡)	(900㎡)	
		実績	1,473㎡	0㎡	900㎡	170㎡	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	買取申出期間を6月～7月末まで2ヶ月設け、申出者を募った結果、申出希望が1件あり、買取協議も円滑に進んだことにより、170㎡(1筆)の用地取得ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	全体用地取得率	目標	()	(100%)	(83.6%)	(91.7%)	()
		実績		87.3%	83.6%	85.1%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	R2年度の成果目標には届かなかったものの、取得目標面積11,000㎡に対して、9,364㎡(取得率85.1%)の用地を取得しており概ね目標を達成している。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・申出期間を最大限（2ヶ月間）設け、事業の周知に努めたが、申出件数は1件のみとなった。 ・税制優遇措置や、事務手続き等の情報提供を適宜行うことで、買取協議を円滑に進めることができたため、申出のあった1筆について、用地を取得することができた。	・買取目標面積の達成に向けて、公共用地の確保の必要性や本事業が最終年度になることについて周知するため、全地権者に対する情報発信を本事業の案内時に取り組む必要がある。
今後の取り組み方針		
・令和3年度が本事業の最終年度であることを強調しつつ、全地権者への周知強化に取り組む。 ・年内での所有権移転登記を完了するため、関係機関（沖縄防衛局、国税事務所）との協議を早期から取り組む。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>2,041</td><td>1,441</td><td>1,153</td><td>288</td><td>600</td></tr></table> 北中城村 1,441千円 需用費 5千円 北中城郵便局 5千円 収入印紙 委託料 1,436千円 (公)沖縄県不動産鑑定士協会 (株)まるい鑑定所 城岳不動産鑑定所 600千円 土地鑑定評価業務 (再評価) ほか、沖縄市負担分(交付対象外経費)：600千円 株式会社オゼック 836千円 用地取得に関する支援業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,041	1,441	1,153	288	600
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,041	1,441	1,153	288	600										
資金の流 れ・費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・土地鑑定評価業務は、沖縄市と調整し、本業務の仕様に対応できる要件等を有した事業者を選定しており妥当である。 ・用地取得支援業務については、指名競争入札により事業者を選定しており妥当である。 ・不用額は事業費の5%以内であり適正であると判断する。 ・費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であると判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	雇用サポートセンター事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-ア		
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	雇用機会の創出・拡大と求職者支援		
事業内容	Ⅲ-2						
事業内容	雇用機会の創出を図るため、地域に密着した就業支援による雇用サポートセンターを設置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,214	5,012	4,135	2,540	2,918
		(b)予算現額	4,214	4,214	2,540	2,540	2,888
		(c)増減額(b-a)	0	▲798	▲1,595	0	▲30
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		4,214	4,214	2,540	2,540	2,888
	B. 執行済額		4,079	4,099	2,497	2,497	2,859
	うち交付金充当額		3,263	3,279	1,997	1,997	2,286
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.8%	97.3%	98.3%	98.3%	99.0%
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	登録企業の開拓	目標	(70件)	(50件)	(50件)	(50件)	
		実績	55件	25件	19件	15件	
	求職者の個別支援	目標	(25件)	(40件)	(40件)	(40件)	
		実績	33件	38件	30件	12件	
達成状況説明	・新たな登録企業の開拓については、ハローワークとの情報共有や企業へ直接訪問による開拓に取り組んだが、新型コロナウイルス感染症の影響等もあり、15件の登録にとどまった。 ・求職者の個別支援として、電話や直接窓口での相談は129件あったが、履歴書・職務経歴書の記入方法支援、面接対策等については、若年者や高齢者に対し、12件にとどまった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	失業者のマッチング	目標	()	()	(15人)	(11人)	()
		実績			7人	7人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・求職者からの相談件数は129件あったが、最終的なマッチングは、11人中7人の就職内定にとどまった。新型コロナウイルス感染症の影響による企業の求人減少や新規登録企業開拓数の減少がマッチング数に影響していると考えられる。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・新型コロナウイルス感染症の影響により、企業の求人数の減少が長期化する恐れがある。 ・引き続き、求職者が希望に近い求人を選択できるよう、登録企業の開拓を進める必要がある。 ・求職者の個別支援について、R2年度は新型コロナウイルスの影響により求人数が減少したことによるものと思われる。相談件数は例年と変化はないが、面接等の個別支援に結びついていない。	・企業等に対し、行政側の雇用者支援策等の周知を強化し、雇用促進に取り組む必要がある。 ・引き続き、マッチング率向上のため、幅広く企業開拓を推進する。 ・求職者のニーズに合った企業開拓を強化し、個別支援件数の増加に取り組む必要がある。
今後の取り組み方針		
・ハローワーク等との情報共有や求職者の求める企業開拓を進め、登録企業開拓及び求職者の個別支援の件数を増加することで、マッチング率の向上に取り組む。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>2,859</td><td>2,859</td><td>2,286</td><td>573</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,859	2,859	2,286	573	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,859	2,859	2,286	573	0										
<pre> graph LR A[北中城村 2,859千円] --> B[報酬 2,363千円] A --> C[職員手当等 333千円] A --> D[旅費 28千円] A --> E[使用料及び賃借料 135千円] B --> F[会計年度任用職員報酬(1名) 2,363千円] C --> G[会計年度任用職員期末手当(1名) 333千円] D --> H[会計年度任用職員通勤手当(1名) 28千円] E --> I[㈱プロスタッフ 135千円] F --- J[雇用支援員] G --- K[雇用支援員] H --- L[雇用支援員] I --- M[パソコン賃借料] </pre>														
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支出先の選定は、関係規則等に基づき行っており、妥当であると考ええる。 ・不用額は事業費の5%以内であり適正であると判断する。 ・費目・使途については、雇用サポート業務に精通した人員を配置しており、目的に即し必要だと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	グッジョブ連携推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-イ	
担当部署名	企画振興課		事業実施(予定)年度	平成27～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	雇用機会の創出・拡大と求職者支援 Ⅲ-2	
事業内容	児童生徒の勤労観や職業観の育成を図るため、ジョブシャドウイングや職場体験、出前フォーラム等を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	予算の状況	(a)当初予算額	18,001	18,998	18,642	21,712	21,636
		(b)予算現額	17,820	18,998	18,642	21,712	21,636
		(c)増減額(b-a)	▲181	0	0	0	0
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	17,820	18,998	18,642	21,712	21,636
	B.執行済額		17,820	18,998	18,642	21,377	21,636
	うち交付金充当額		14,256	15,198	14,913	17,102	17,308
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	98.5%	100.0%
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
				H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	ジョブシャドウイングの実施	目標	()	(3校)	(3校)	(2校)	
		実績		3校	3校	1校	
	職場体験の実施	目標	()	(1校)	(1校)	(1校)	
		実績		1校	1校	0校	
	きたなかキッズJOBクラブの実施	目標	()	()	()	(実施)	
		実績				実施	
	きたなかティーンJOBクラブの実施	目標	()	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績		実施	実施	実施	
	出前フォーラムの開催	目標	(1校)	(1校)	(1校)	(1校)	
		実績	1校	1校	1校	1校	
追跡調査の実施	目標	()	()	()	(実施)		
	実績				実施		
達成状況説明	・ジョブシャドウイングについて、小学校2校のうち1校は実施したが、残りについては、事前学習まで行ったが直前に新型コロナウイルス感染症の地域感染レベル引き上げにより実施に至らなかった。 ・職場体験については、校内ハローワークや職業人講話等の事前学習は行ったが、実施直前の沖縄県緊急事態宣言により中止となった。 ・キッズJOBクラブは、小学5年生を対象に計画通り実施した。 ・ティーンズJOBクラブ、出前フォーラムについて、村内県立高校を対象に予定通り実施した。 ・追跡調査について、事業開始当初の小学校卒業生を対象にアンケート及びヒアリング調査を実施した。(対象者119人 回答者21人)						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	就業に対する意識が向上したか(80%以上)を含め、アンケート調査により本事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		95%	92%	90%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	・事業対象の小中高校生に対しアンケートを実施した結果、「就業に対する意識が向上した」と回答した生徒が90%となり、成果目標を達成することができた。 ・追跡調査において、小学校から本事業のキャリア教育を受けた児童・生徒の方が、仕事へのやりがい、地域との関わり、学校での学習が仕事と結びついていることに関して肯定するポイントが1.7～2ポイント高く、本事業を評価する傾向が高かった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・新型コロナウイルス感染症の影響により、各事業所の受入れ可否や事業実施に関して、リモートなどインターネットを活用することで、臨機応変に対応できるよう努める必要がある。 ・引き続き、職場体験については、IT関連、AI関連など新たな職種に興味を持つ生徒が多いことから、生徒の希望する職種を提供できるよう努める。	・児童生徒に対し、就業について学ぶ機会を与えられるよう、学校、事業所等に対し、本事業の必要性を周知すると同時に、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、映像教材の作成やリモートシステム等の活用により学びの場を提供できるよう検討する必要がある。 ・引き続き、児童生徒に対するきめ細かい支援を行うため、希望する職業の協力企業開拓を進めていく必要がある。
今後の取り組み方針		
・引き続き、協議会を構成する産官学の団体と連携することで、これまで培ってきた協力体制を維持し、本事業の継続実施に向け取り組む。 ・追跡調査の結果等から、キャリア教育として取組む諸活動を学校の教科や日々の学習と連動した内容で行うことで、様々な経験から複合的に進路・就業観を培い、児童生徒の就業意識の向上に努めることで、職業観や勤労観の育成に取り組む。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>21,636</td><td>21,636</td><td>17,308</td><td>4,328</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	21,636	21,636	17,308	4,328	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
21,636	21,636	17,308	4,328	0										
北中城村 21,636千円 委託料 21,636千円 株式会社ケイオーパートナーズ 21,636千円 北中城村グッジョブ連携推進事業														
資 使 金 の 流 れ ・ 費 目 ・ 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、随意契約により選定しているが、実績や知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと判断する。 ・予算規模は、業者見積もりを踏まえ設定しており、適正な規模であると判断する。 ・費目・使途については、精算時に検査をしており、目的に即し必要であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	営農支援強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-エ	
担当部署名	農林水産課		事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	専門性の高い営農指導員の指導による生産から販売までの総合的な営農支援を農業者に行うとともに、安定した農業経営に必要なパイプハウス整備支援を実施する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(2年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	予算の状況	(a)当初予算額	4,414	11,164	4,414	4,414	5,120
		(b)予算現額	4,414	4,414	9,574	11,726	10,937
		(c)増減額(b-a)	0	▲ 6,750	5,160	7,312	5,817
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	4,414	4,414	9,574	11,726	10,937
	B. 執行済額		4,414	4,414	8,974	11,726	10,471
	うち交付金充当額		3,530	3,530	7,178	9,380	8,377
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	93.7%	100.0%	95.7%
予算の状況の説明		・安定した生産体制支援に必要なパイプハウス整備支援に要する費用5,817千円を増額補正した。 ・不用額466千円については、パイプハウス整備補助金実績報告によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	営農指導員の配置	目 標	(2名)	(2名)	(2名)	(2名)	
		実 績	2名	2名	2名	2名	
	パイプハウス施設の整備補助	目 標	()	(2基)	(2基)	(2基)	
実 績			2基	2基	2基		
達成状況説明	・当初の予定通り、農業に関する専門知識を持った者を指導員として配置することができた。 ・希望農家の営農実態について、補助先となるJAおきなわから情報収集し、営農支援体制の検討を行うことで、計画通り2基のパイプハウスを設置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	指導した農家の年間出荷額	目 標	()	(3,456千円)	(3,790千円)	(4,006千円)	()
		実 績		4,678千円	3,415千円	3,460千円	
	【R2成果目標(パイプハウス)】 ゴーヤー出荷額	目 標	()	()	()	(1,689千円)	()
		実 績				440千円	
進捗状況説明	・営農指導については、指導した農家(45件)の年間出荷額目標額について、コロナ過で需要が低下するなか、給食センターなどへの安定供給に努めたことで、目標値の86%となり概ねを達成することができた。 ・導入したパイプハウスのゴーヤー出荷額については、コロナ禍で需要が低下し供給先の確保に苦慮したため、新規取引先の開拓に取り組んだが、目標値の26%程度にとどまった。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・強化品目を選定し、生産や農薬適正使用を農家へ指導したことにより、学校給食等への出荷量は安定している。 ・大型商業施設への出荷については、安定した品質、生産量が求められることから、生産量が減少した場合の取引先の減少が懸念される。 ・これまで整備したパイプハウス施設により、災害被害は低減されているが、病害虫被害の防止や土壌改良の必要性など、施設ごとに多様な課題が生じている。	・営農指導員による経営指導支援を強化することで、品質向上に努めるとともに、若手生産者及び村内主力農家の生産量を増やし、安定した生産量を確保することで、拡大してきた販路の維持に取り組む必要がある。 ・意欲ある農業者に対しパイプハウス整備の支援を行うことで、長雨や病害虫等の被害軽減を図る。 ・パイプハウス施設ごとに課題の改善に向けた対策を検討し、農業者と調整することで、きめ細かい営農指導を継続して実施する必要がある。
今後の取り組み方針		
・営農指導員による支援・指導を強化することで、農業者の生産技術の向上を図り、安定した農産物等の販売による農業経営の支援に取り組む。特に、新型コロナウイルス感染症の影響による消費の低迷等により農家の所得減少が懸念されるため、営農指導員と協力して新たな販路や販売方法の研究、情報収集等に努める。 ・パイプハウス整備を希望する農業者への支援を引き続き実施する。 ・パイプハウス施設を整備した農業者との調整を密に取り、土づくりや防除、栽培技術支援など、過年度までの課題を踏まえた営農への取り組みを支援することで生産量の増加を図る。		

資金の流れ														
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10,471</td><td>10,471</td><td>8,377</td><td>2,094</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	10,471	10,471	8,377	2,094	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
10,471	10,471	8,377	2,094	0										
北中城村 10,471千円 報酬 3,930千円 会計年度任用職員 2名 3,930千円 （農業経営改善指導業務） 職員手当等 553千円 会計年度任用職員 2名 553千円 （農業経営改善指導業務） 旅費 36千円 会計年度任用職員 1名 36千円 （農業経営改善指導業務） 補助金 5,952千円 沖縄県農業協同組合 5,952千円 （パイプハウス整備事業費補助金）														
資金の 使途の 流れ・ 点検・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・指導員は、面接を経て資格や経験、業務に対する意欲がある者を採用しており、妥当であると判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・パイプハウス整備については、見積り等を踏まえ積算しており、予算規模は妥当であったと判断する。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・パイプハウス整備に要する費用の一部を補助先が負担しており、補助要綱に則り妥当であったと判断する。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目・使途については、農業に精通した人員を配置しており、目的に即し必要であったと判断する。											

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	地域ブランド構築事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ		
担当部署名	企画振興課		事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成	
事業内容	特産品の販売促進を図るため、特産品取扱店舗の維持・開拓、首都圏等での調査・プロモーションを実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	予算の状況	(a)当初予算額	9,677	5,188	4,092	5,240	4,504
		(b)予算現額	12,373	5,214	4,102	5,240	4,498
		(c)増減額(b-a)	2,696	26	10	0	▲6
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	12,373	5,214	4,102	5,240	4,498
	B.執行済額		10,329	5,191	4,101	5,200	4,498
	うち交付金充当額		8,263	4,153	3,280	4,159	3,598
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		83.5%	99.6%	100.0%	99.2%	100.0%
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	開発した特産品取扱店の維持・開拓		目標 (維持・開拓)	(維持・開拓)	(維持・開拓)	(維持・開拓)	
			実績	6店舗の維持・開拓	8店舗の維持・開拓	9店舗の維持・開拓	4店舗の維持・開拓
	北中城村特産品の調査		目標 ()	()	(実施)	(実施)	
			実績		実施	実施	
達成状況説明	・村内外より著名シェフに北中城村特産品オリジナルレシピを開発してもらい、シェフによる料理教室を実施した。また、オリジナルレシピブックを作成し配布することで地域ブランドとしてプロモーションを行った。 ・新聞、SNS、冊子でパッションフルーツを北中城村の特産品として推進している取り組みや商品についてのプロモーションを行った。 ・中部農業改良普及センターの協力のもと、青果の育成から加工までの支援資料を作成した。 ・特産品取扱店4店舗については、自店での販売だけでなく、本村のふるさと納税返礼品としても取り組んだ。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	アーサクッキー年間販売額	目標 ()	(120千円)	(120千円)	(120千円)	()	
		実績		120千円	120千円	120千円	
	アーサ麺年間販売額	目標 ()	(880千円)	(1,100千円)	(1,100千円)	()	
		実績		1,100千円	130千円	0千円	
	パッションスイーツ年間販売額	目標 ()	(60千円)	(8千円)	(8千円)	()	
		実績		8千円	347千円	0千円	
	パッションフルーツスカッシュ年間販売額	目標 ()	(17千円)	(20千円)	(20千円)	()	
		実績		20千円	37千円	0千円	
	パッションフルーツタコライスソース年間販売額	目標 ()	(55千円)	(63千円)	(63千円)	()	
実績			63千円	54千円	21千円		
進捗状況説明	・アーサ麺は、製造工場の閉店により製造できなかったため販売することができなかった。 ・パッションスイーツ・パッションスカッシュは、新型コロナウイルス感染症の拡大が影響し、県外イベント等が中止になったことで販売がなかった。 ・パッションフルーツタコライスソースについては、新型コロナウイルス感染症拡大により販売店舗への来客数が減少したため、売り上げが減少した。 ・新型コロナウイルスの影響を軽減させるため、ふるさと納税返礼品とし採用するなど、売上げ増加に向けた取り組みを行った。						

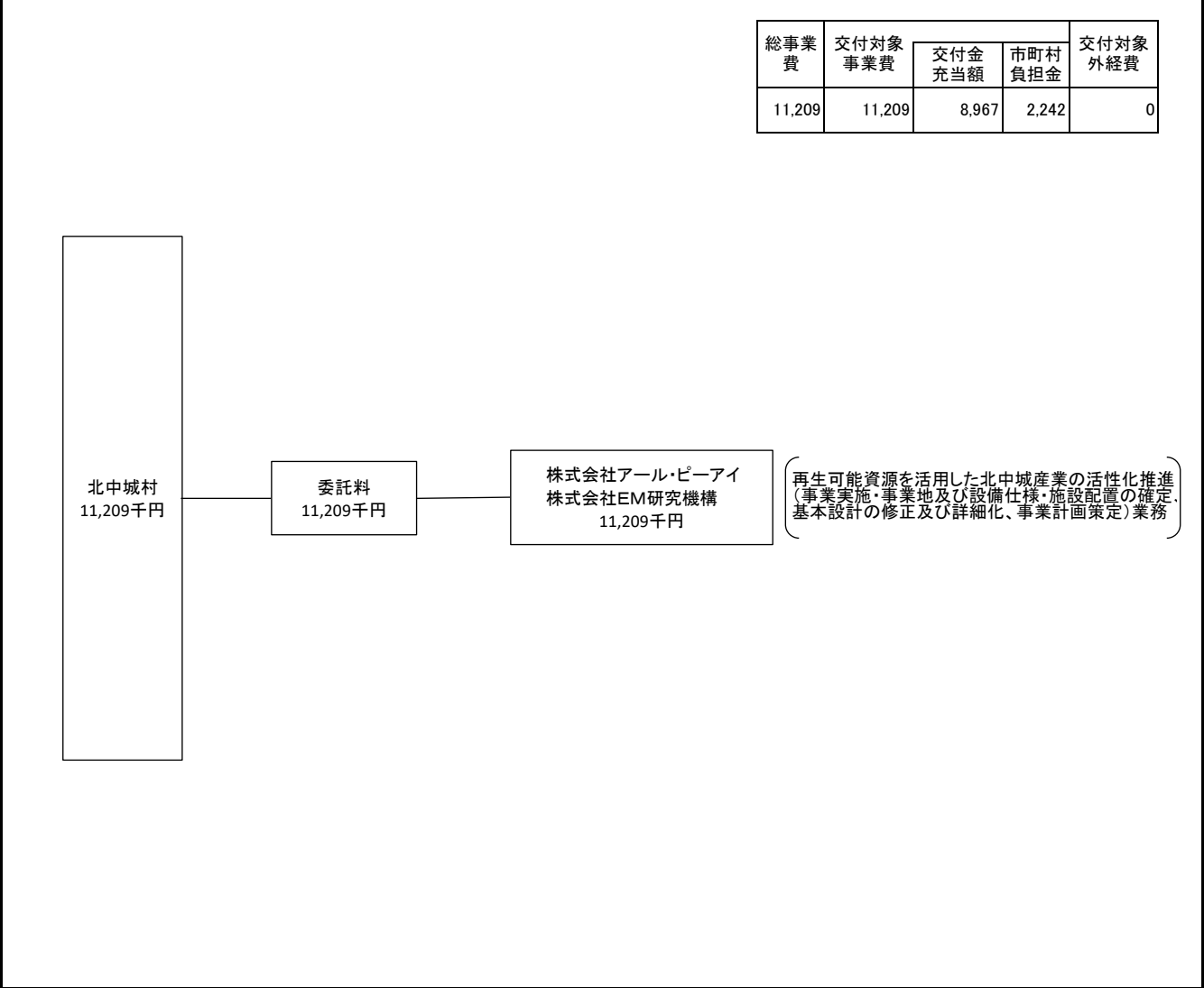
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・新型コロナウイルス感染症の拡大と収穫時期が重なったため、生産農家の選定、一次加工ラインの構築が遅れ、前年度に比べてパッションフルーツ生果の収穫量が減少した。 ・生産農家が少なく、生果の年間の出荷量が安定しないという課題がある。（JAの果樹部会と連携しているものの、マンゴーを専門に栽培している農家が多く、パッションフルーツ農家が少ない。） ・1農家が収穫するパッションフルーツの収穫が少ないため、本村に少量でも集荷できる仕組みが必要である。（ピュア化することで、規格外品等を活用して安定供給が可能となる。） ・一次加工製造所が遠方に選定されたことにより、加工製造が安定定着しなかった。	・新型コロナウイルス感染症の拡大時期でも生産農家と加工所が機能するような加工ラインの構築を図る必要がある。 ・加工所が近隣に定着することにより、出荷先が安定し生産農家の意欲向上につながり青果の生産量や生産者の増加を促す必要がある。 ・近隣に加工所をおくことにより、生産農家の出荷の負担を減らし、納品の連携が取りやすくなることで、一次加工製造の安定定着を図る必要がある。
今後の取り組み方針		
・パッションフルーツ生果から果肉を取り出す一次加工ラインを構築することで、パッションフルーツ生産農家から生果の安定供給が見込めることから、生産農家の所得向上に繋げる。 ・一次加工品（パッションフルーツピューレ）を活用した二次加工事業者を増やす取組みを推進するため、パッションフルーツを使ったオリジナルレシピ開発を大南など、北中城村産パッションフルーツとしてのブランド力向上に取り組む。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>4,498</td><td>4,498</td><td>3,598</td><td>900</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,498	4,498	3,598	900	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,498	4,498	3,598	900	0										
北中城村 4,498千円 委託料 4,498千円 株式会社 ノイズ・バリュー社 4,498千円 （北中城村の食材のブランド化を目的とした商品開発業務）														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと判断する。 ・不用額は5%以内であり、適正な規模であったと判断する。 ・費目及び使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③	農を活かした北中城活性化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-カ	
担当部署名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成28～令和2年度		沖縄振興基本方針該当箇所	亜熱帯・島しょ性に適合した農林水産業の基盤整備	
事業内容	水耕栽培実証実験施設の事業施設化に向けた仕様の策定と当該施設に必要なエネルギーや耕作放棄地の再生に資する堆肥化を食物残渣で賄えるよう、事業化に向けた施設の仕様を策定する。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(2年度、3年度、5年度)						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	予算の状況	(a)当初予算額	15,140	14,943	25,499	19,472	11,232
		(b)予算現額	105,134	52,557	30,927	30,272	11,232
		(c)増減額(b-a)	89,994	37,614	5,428	10,800	0
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	105,134	52,557	30,927	30,272	11,232
	B.執行済額		103,174	52,301	30,267	29,060	11,209
	うち交付金充当額		82,539	41,841	24,213	23,248	8,967
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.1%	99.5%	97.9%	96.0%	99.8%
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	水耕栽培施設の仕様の策定	目標	(実証実験実施)	(実証実験実施)	(実験完了)	(施設仕様の策定)	
		実績	実証実験実施	実証実験実施	実験完了	施設仕様の策定完了	
	エネルギー化・堆肥化施設の最適仕様の策定	目標	()	()	(計画検討)	(仕様の策定)	
		実績			検討完了	仕様の策定完了	
	6次化商品試作品の改良及びテスト販売の実施	目標	()	()	()	(実施)	
実績					実施		
達成状況説明	・実証実験の実績を踏まえ、品目ごとの栽培対応について、最適な仕様を机上にて検証を行い、施設仕様の見直しを行った。 ・前年度までに実施された検討を踏まえ、さらに新たな可能性についても整理を行い、本事業での取組みに対して最適なエネルギー化・堆肥化施設の最適な仕様を策定した。 ・前年度の水耕栽培実証実験の成果を踏まえ、地元企業と共に更なる改良を3品図り、その3品の試験販売を行うことで、製品として販売目処を付けた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R3.5年度)
	品目毎の最適な施設仕様の策定	目標	()	(実証実験の完了)	(実証実験の完了)	(施設仕様の策定完了)	()
		実績		実証実験の完了	実証実験の完了	施設仕様の策定完了	
	整備地域の電力需要を踏まえた発電施設最適仕様の策定	目標	()	()	(基本設計の策定)	(仕様の策定)	()
		実績			基本設計の策定	仕様の策定	
	試作品の改良及びテスト販売	目標	()	()	()	(実施)	()
		実績				実施	
	【R2成果目標】 6次産業化による特産品の開発	目標	()	()	()	(3品)	()
		実績				3品	
	【R2成果目標】 上記の販売事業化となる村内販売店	目標	()	()	()	(2件)	()
		実績				1件	
	【R3成果目標】 再生資源化村施設の導入	目標	()	()	()	()	(1件)
		実績					
【R5成果目標】 民間による小規模分散型バイオガス発電設備設置数	目標	()	()	()	()	(2件)	
	実績						
進捗状況説明	・品目ごとの栽培対応について、最適な仕様を机上検証にて行い、施設仕様の見直しを行ったことで目標を達成した。 ・6次化商品については3品の試験販売を実施し、今後の製品として販売目処を付けたことで目標を達成した。 ・6次化商品の販売についても1店舗を確保し、1店舗は販売に向け調整を継続しており、目標を一部達成した。 ・再生可能資源を活用したエネルギー施設に関しては、整備地域の電力需要(特に農業施設で)を踏まえた発電施設最適仕様の策定を図った。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(水耕栽培実証実験) ・事業化が期待できる品目を確認できたものの、課題が残る栽培品目もあり、それぞれの栽培設備・方法等の課題解決に取組む必要がある。 ・栽培品目による6次産業化に向けた開発品においては、栽培・生産に関する販売への安定的な見通しを付ける必要がある。 ・令和2年度は、新型コロナウイルスを懸念し、栽培を停止した。 (再生可能資源(生ごみ)によるバイオマスガス発電設備) ・原料となる残渣のメタンガス発生の有効性は高いことから、アンモニアの発生対策も含めた消化液の取扱いについて、EM菌などを活用し、有効かつ効率的な対策法と設備・装置の構築を図り、村内農場での有効利用を進める必要がある。	(水耕栽培実証実験) ・それぞれの実証設備の改善・改修による栽培環境の向上と栽培方法の工夫を図る。 ・水耕栽培品目を活用した6次産業化商品に関しては、村内外の企業と提携して原料の栽培安定化、商品の製造を行い、販路対策などについても協力を得ていく。 ・コンテナ内が殺菌状態にあるとしても、密閉された空間で長時間作業することによる作業員間感染を起こさない人員配置が必要である。 (再生可能資源(生ごみ)によるバイオガス発電設備) ・アンモニアの発生対策も含めた消化液の取扱いについて、EM菌などを活用し、有効かつ効率的な対策法とエネルギー効率の良い設備・装置の構築を進めていく。
今後の取り組み方針		
	(水耕栽培実証実験) ・現在までの取り組みについて現状の分析・チェックを図り、成果目標達成に向けたプランの検証・見直しを行う。 ・本事業において作成した栽培品目の栽培マニュアル、栽培に関しての設備オペレーションマニュアルを用いて本施設を活用した研修を行うとともに、企業等と連携し、栽培環境の改善・効率化を図ることで、栽培収量の改善及び栽培品目の多様化に取り組み、事業化への推進を図る。 ・栽培品目を活用した6次産業開発商品の安定的な事業化(原料栽培供給・商品の製造・流通など)について取り組む。 ・コロナ禍でも栽培可能な方法を検討する。 (再生可能資源(生ごみ)によるバイオガス発電設備) ・生ごみのエネルギー化・堆肥化への最適化かつ先進性を持った設備・装置の構築、それらを踏まえた事業計画等の見直し・策定、施設整備の着手等に取り組む。	

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検・費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考える。 ・不用額は事業費の5%以内であり適正であると判断する。 ・費用・使途は、事業内容を勘案して適切かつ事業目的に即し真に必要なものであったとの確認を業務完了時の検査において精査しており、妥当なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-④	農を活かした健康・福祉の里づくりに向けた推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-キ	
担当部署名	農林水産課		事業実施(予定)年度	平成30～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	フロンティア型農林水産業の振興 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	耕作放棄地の再生に向けて、循環型農業ゾーンと体験農園施設ゾーンを整備するため、民間事業者が継続して営農するための収支見通しの策定を行うとともに、民間事業者の誘致を図る。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(4年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算の状況	(a)当初予算額	9,887	10,544	11,216		
		(b)予算現額	9,887	10,544	11,216		
		(c)増減額(b-a)	0	0	0		
		(d)繰越額	-	-	-		
		A.計(b+d)	9,887	10,544	11,216		
	B.執行済額		9,785	10,538	11,187		
	うち交付金充当額		7,827	8,430	8,949		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		99.0%	99.9%	99.7%		
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)			達成状況			
				H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
	民間事業者が循環型農業・体験農業ゾーンで継続的に営農するための収支見通しの策定	目標	()	(事業化計画の策定)	(策定)	()	
		実績		事業化計画の策定	策定		
	民間事業者誘致	目標	()	()	(誘致)	()	
実績				誘致			
達成状況説明	第一段階整備(バイオガス発電、水耕栽培施設、学童・体験農園など)を実施する民間事業者の公募を図り、第一段階実施事業者を1社確保し、その事業者の協力を得て、循環型農業・体験農業ゾーンで継続的に営農するための収支見通しの策定を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R4年度)
	収支見通しの策定	目標	()	()	(事業化計画の策定)	(策定)	()
		実績			事業化計画の策定	策定	
	民間事業者の誘致	目標	()	()	()	(誘致)	()
		実績				誘致	
	【R4成果目標】 循環型農業ゾーン及び体験農園施設ゾーンの実現として、再生可能資源を活用してエネルギーを生産し、コンテナ式水耕施設(40F)の稼働と200坪程度の園芸施設に供給を図る。		目標	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	・第一段階(バイオガス発電、水耕栽培施設、学童・体験農園など)実施事業者を1社確保し、その事業者の協力を得て、循環型農業・体験農業ゾーンで継続的に営農するための収支見通しを策定したことで、目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・第2段階整備（体験・観光型農園、農産物直売所、農家レストラン）に向けた地域住民への周知を図る必要がある。 ・地権者の意向も踏まえ、事業化するうえで、整備の方向性等の取りまとめを行う必要がある。	・地権者や地域住民へ本事業の内容や必要性、今後の取組み等を周知することで、本事業の取組内容を理解してもらう必要がある。
今後の取り組み方針		
・第2段階整備の実現（体験・観光型農園、農産物直売所、農家レストラン）に向けて、民間企業の誘致を行い、事業者選定を行う。 ・地権者との調整や法的規制等に関する調整を行う。		

資金の流れ						
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
		11,187	11,187	8,949	2,238	0
北中城村 11,187 千円 委託料 11,187千円 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 沖縄支店 11,187千円 事業予定者・実施対象地・事業内容の確定、事業実施者と村とが共有を図った事業実施に向けての造成・配置計画及び基本的な設計概要、						
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目			評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。			・委託事業者は、公募型プロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考える。 ・不用額が事業費の5%以内であることから、予算規模は適正であったと考える。 ・費用・使途は、事業内容を勘案して適切かつ事業目的に即し真に必要なものであったとの確認を業務完了時の検査において精査しており、妥当なものであったと判断した。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。				
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。				
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	総合英会話指導支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、社会情勢に対応した教育の推進		
	Ⅲ-3-(1)						
事業内容	生きた英語に触れることで、児童生徒の英会話への興味・関心を高めるため、村立小中学校に英会話指導員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	7,938	7,938	7,938	7,275	9,182
		(b)予算現額	6,734	6,347	6,367	5,222	8,053
		(c)増減額(b-a)	▲1,204	▲1,591	▲1,571	▲2,053	▲1,129
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	6,734	6,347	6,367	5,222	8,053
	B.執行済額		6,641	6,248	6,360	5,222	8,053
	うち交付金充当額		5,312	4,998	5,088	4,177	6,442
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.6%	98.4%	99.9%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		夏休み等の長期休業中の勤務実績分を補助対象外としたことや勤務実績により1,129千円減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	英会話指導員の配置 (小学校:1人、中学校:1人、幼小兼務:1人)	目標	(3人)	(3人)	(3人)	(3人)	
		実績	3人	3人	3人	3人	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	年間を通して小中学校すべてに指導員を配置できたことで、円滑に事業を実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	英語検定の受検者数	目標	()	(435人)	(543人)	(602人)	()
		実績		357人	420人	204人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	新型コロナウイルス感染症の影響により、中学校での集団検定が開催できなかったことで、英語検定受検者数が目標値の34%となり、目標を達成することができなかった。					

	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
取組の検証	・660人に対するアンケート調査で、継続的にネイティブスピーカーによる生きた英語を体験することで、英語の授業が楽しいと感じる生徒が中学生においては全員（100%）となり、英語への興味関心は高まってきている。しかし、コロナ禍で集団での英語検定開催回数が減り、全生徒の約4割しか受検出来なかった。 ・小学生では、316人のアンケート調査により英語の授業が楽しいと感じる児童は307人（97.2%）となっており、昨年度の89.6%よりも増えている。また、昨年度に比べて英語が好きになったと思う児童は95.5%おり、着実に興味関心は高まってきているが、英語検定Jrの受検者が0人であったことから、案内・周知が不十分である。	・英語検定英検Jr.の効果的な周知方法について、他市町村に聞き取り調査等を行うことで、英検等の受検を促進する。 ・教科としての英語と英会話を関連付けながら興味関心を惹きつける授業展開や英語に親しませる授業の展開ができるようにより、更に興味・関心の向上に努める。
今後の取り組み方針		
・英語担当教諭や英会話指導員などの関係者と情報共有を図り、楽しく英語を学び親しむ環境の整備や児童生徒の英語活用能力を高める授業に取り組む。 ・英語検定、英検Jrについての案内・周知の徹底を図りながら、受検機会の創出に取り組む。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>9,155</td><td>8,053</td><td>6,442</td><td>1,611</td><td>1,102</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	9,155	8,053	6,442	1,611	1,102
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
9,155	8,053	6,442	1,611	1,102										
北中城村 8,053千円 報酬 職員手当 旅費 8,053千円 報酬 6,939千円 〔英会話指導員（北中城小学校・島袋小学校兼幼稚園・北中城中学校 各1名） ほか、夏休み等に係る対象外経費：977千円〕 職員手当 993千円 〔英会話指導員（北中城小学校・島袋小学校兼幼稚園・北中城中学校 各1名） ほか、夏休み等に係る対象外経費：125千円〕 旅費 121千円 〔英会話指導員（北中城小学校・島袋小学校兼幼稚園・北中城中学校 各1名）														
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・指導員は英語を母国語とする外国人を積極的に採用し、面談や学校への聞き取りを通して指導力等を判断しているため妥当であると考える。 ・予算規模については、村規則等に基づき積算しており妥当であったと考える。 ・費用・使途は事業目的に即したものであり適切であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-②	アメリカ教育機関ネットワーク形成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、社会情勢に対応した教育の推進		
事業内容	Ⅲ-3-(1)						
事業内容	国際社会で対応できる人材を育成するため、米国教育機関とのWEBシステムによる集中講座を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,422	5,422	5,422	5,634	5,529
		(b)予算現額	5,422	5,514	5,719	6,031	5,762
		(c)増減額(b-a)	0	92	297	397	233
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	5,422	5,514	5,719	6,031	5,762
	B.執行済額		5,383	5,474	5,694	6,244	5,620
	うち交付金充当額		4,306	4,379	4,555	4,695	4,495
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.3%	99.3%	99.6%	103.5%	97.5%
予算の状況の説明		・233千円の増額補正については、委託業務の精算に伴うものである。 ・新型コロナウイルス感染症対策により、講座をオンライン開催としたため、施設使用料142千円が不用となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	中学生クラス:講座64回 (前期32回・後期32回)	目 標	(64回)	(64回)	(64回)	(64回)	
		実 績	64回	64回	64回	64回	
	小学生クラス:講座64回 (前期32回・後期32回)	目 標	(64回)	(64回)	(64回)	(64回)	
		実 績	64回	64回	64回	64回	
達成状況説明	・小学生クラス、中学生クラスともに新型コロナウイルス対策を取ることで、計画通りに講義が開催され、活動目標を達成することができた。 ・児童生徒の英語力が向上するとともに、授業での積極性や自身で考えて意見を述べる力なども養われており、本村の国際性に富む人材育成へ向け児童生徒自身の意識を高めることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	定期テストにおける英語習熟度:講座を受けた生徒全員80点以上	目 標	()	前期:全生徒 後期:全生徒	(前期:全生徒 後期:全生徒)	(前期:全生徒 後期:全生徒)	()
		実 績		前期:22名中5名 後期:20名中5名	前期:21名中7名 後期:23名中19名	前期:22名中20名 後期:23名中19名	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	補助員を配置し、新規受講者や遅れが見られる受講者に対する講座後のフォローアップに努めたことで習熟度が高まり、前期・後期ともに8割以上の生徒が80点を越えたことで、成果目標を概ね達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・中学生クラスにおいて、受講生間のレベルに較差が生じてきており、講義内容が物足りない生徒があり、出席率低下の要因となった。 ・部活動や個人的理由により講座に参加できない生徒があり、講義の遅れをとっている生徒がいる。 ・各家庭でのオンラインによる講義を行ったことで、コロナ禍においても安定的な講義の実施と受講生の出席率を確保することができた。	・英語検定やその他英語教材を提供/宿題にすることやライティングのサポートを実施し、出席率の改善を行う。 ・受講生の募集段階において、本事業の目的について学校やホームページ等を通じて周知強化を図ることで、出席率の改善に取り組む必要がある。 ・新型コロナウイルスの収束を見通すことが困難な状況にあり、引き続き各家庭でのオンライン受講に取り組む必要がある。
今後の取り組み方針		
・クラス内の習熟度格差を縮めるため、英語力が低い生徒に対しては個別で学習サポート実施を検討する。 ・レベルの高い生徒については、難易度の高い課題を与え、英語学習に対する意欲の向上に取り組む。 ・新規受講者や低学年の生徒については、ライティングのサポートを実施することで、更なるレベルアップに取り組む。 ・受講生募集時に、本事業の目的や取組内容について、生徒や保護者に十分理解してもらえるよう、学校やホームページ等を通して周知強化に取り組む。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>6,132</td><td>5,620</td><td>4,495</td><td>1,125</td><td>512</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,132	5,620	4,495	1,125	512
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,132	5,620	4,495	1,125	512										
北中城村 5,620千円 需用費 50千円 有限会社 文正堂 50千円 講座用消耗品 役務費 142千円 NTTコミュニケーションズ 142千円 ネット回線利用料 委託料 5,428千円 DOT E Solutions株式会社 5,428千円 ・ESLライブ授業の管理運営 ・米国大学との連絡調整 〔ほか、受講生負担分(交付対象外経費):512千円〕														
資金の流	評価	点検項目	評価に関する説明											
使途の流れ、費用・	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者については、米国大学との交渉、契約等を県内で行える唯一の事業者であることから妥当といえる。 ・予算規模は事業者より見積もりを取っており適正である。 ・受講生からは受講料を徴収しており、受益者との負担関係は妥当である。 ・費目、用途については、大学へ支払う受講料、人件費、米国との交渉等に係る費用として必要である。											
・	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	琉球歴史風致資産調査事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア	
担当部署名	生涯学習課		事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり Ⅲ-3-(2)	
事業内容	村に残されている祭祀や旧跡を「歴史風致資産」として一体的に捉え、これまでの各種調査の成果をまとめた報告書を発刊するほか、調査記録動画をWEBにて公開する。						
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(3年度)						
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	予算の状況	(a)当初予算額	8,881	8,881	8,835	8,829	7,453
		(b)予算現額	8,881	8,831	8,835	6,416	10,902
		(c)増減額(b-a)	0	▲50	0	▲2,413	3,449
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	8,881	8,831	8,835	6,416	10,902
	B.執行済額		8,795	8,822	8,828	6,388	10,897
	うち交付金充当額		7,036	7,057	7,062	5,111	8,717
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.0%	99.9%	99.9%	99.6%	100.0%
予算の状況の説明		・事業計画変更に伴い印刷製本費を3,449千円増額した。 ・不用額5千円については、報告書の印刷製本に伴う執行残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	調査報告書(祭祀編)の原稿編集	目標	()	()	()	(380ページ(100%))	
		実績				380ページ(100%)	
	映像記録WEB公開	目標	()	()	()	(30件)	
		実績				31件	
	調査報告書(旧跡等)の原稿編集	目標	()	()	()	(30%)	
		実績				10%	
	達成状況説明	・調査報告書(祭祀編)の原稿編集については、着実に目標達成することができた。 ・映像記録WEB公開については、関係自治会との協議調整が順調に進んだ結果、村観光協会ホームページにて目標を超える件数を公開することができた。 ・調査報告書(旧跡等)の原稿編集については、調査報告書(祭祀編)の入稿後の校正作業に時間を要したため10%の進捗となった。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度
調査報告書(祭祀編)の発刊及び各機関等への配布		目標	()	()	()	(発刊)	()
		実績				発刊	
【R3成果目標】 報告書利用者に対し村の歴史への理解度等に関するアンケートを実施し、本事業のあり方を検証する。		目標	()	()	()	()	(80%以上)
		実績					
進捗状況説明		・原稿編集にあたり、短期間刻みでの監修会議を実施することで、作業の遅れを軽減し、綿密な進捗管理に努めた。 ・発刊した報告書については、広く普及・活用してもらうため、村内自治会のほか、県内の各市町村教育委員会、図書館、大学、その他関係機関等(約230ヶ所)へ配布した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・報告書については年内での刊行を予定していたが、感染症対策のため分散勤務体制が敷かれるなどの影響で、予定スケジュールが大幅にずれ込み、年度末での発刊となった。作業の遅れは、動画関連、R3刊行予定物の編集にも及んだ。	・報告書作成における監修作業はオンライン環境では難しく、非効率的であるため、勤務体制の変動等に影響を少なくする開催方法(定期開催ではなく集中的な監修会議の実施等)で実施する必要がある。
今後の取り組み方針		
・新型コロナウイルス感染症の影響による分散勤務体制等の不測の事態が生じる中、集中的な監修会議による進捗管理が有効であったと考えており、R3年度においても同様に監修作業を執り行い、成果目標の着実な達成に取り組む。 ・本村の歴史に対する理解度をより高めるため、発刊成果をもとにした企画展示等の情報発信に取り組む。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10,897</td><td>10,897</td><td>8,717</td><td>2,180</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	10,897	10,897	8,717	2,180	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
10,897	10,897	8,717	2,180	0										
北中城村 10,897千円 報酬 6,467千円 職員手当等 911千円 旅費 170千円 需用費 3,349千円 会計年度任用職員 3名 6,467千円 会計年度任用職員 3名 911千円 会計年度任用職員 3名 170千円 株式会社 尚正堂 3,349千円 歴史風致資産調査業務 歴史風致資産調査業務 歴史風致資産調査業務 北中城村歴史風致資産調査報告書(祭祀)印刷製本業務														
資金の流	評価	点検項目	評価に関する説明											
使途の流 点検 費目・	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支出先について、村規則にのっとり専門知識を有する人員を委嘱しており妥当であったと考える。 ・印刷製本については、指名競争入札により印刷業者を選定しており、適正な価格であったと考える。 ・費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出に関する書類を点検した結果、適正であったと考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-①	特別支援教育支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ウ		
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	時代に対応する魅力ある学校づくりの推進		
事業内容	Ⅲ-3-(1)						
事業内容	特別な支援を要する児童生徒について、学校生活や学習上の困難の改善を図るため、村立幼稚園、小学校、中学校に特別支援教育支援員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	46,220	53,729	31,932	30,758	42,151
		(b)予算現額	38,066	44,607	34,115	26,223	39,331
		(c)増減額(b-a)	▲ 8,154	▲ 9,122	2,183	▲ 4,535	▲ 2,820
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	38,066	44,607	34,115	26,223	39,331
	B. 執行済額		37,560	44,169	34,115	26,223	39,331
		うち交付金充当額	30,047	35,335	27,292	20,978	31,464
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	98.7%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	夏休み等の長期休業中の勤務実績分を補助対象外経費としたことや勤務実績を踏まえ、2,820千円を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
	特別支援教育支援員の配置		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		目 標	小学校:16人 (中学校:7人) 幼稚園:7人	小学校:12人 (中学校:5人) 幼稚園:5人	小学校:10人 (中学校:4人) 幼稚園:4人	小学校:10人 (中学校:4人) 幼稚園:4人	
		実 績	小学校:16人 中学校:7人 幼稚園:7人	小学校:12人 中学校:6人 幼稚園:5人	小学校:10人 中学校:4人 幼稚園:4人	小学校:10人 中学校:4人 幼稚園:4人	
		目 標	()	()	()	()	
	実 績						
達成状況説明	幼稚園及び小中学校すべてに支援員を配置できたことで、円滑に事業を実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	支援員に対する満足度(80%以上)を含め、対象となる児童生徒の保護者へのアンケート調査により、本事業のあり方について検証する。	目 標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実 績		91.5%	92.8%	96.6%	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・当初の活動目標どおり支援員を配置し、きめ細かな支援を行ったことで、保護者の支援員に対する満足度が、アンケート提出者116人中112人で9割を超えており、成果目標を達成することができた。 ・コロナ禍で休校が続く中でも支援員とのミーティング等で情報共有や情報交換の機会を設けることにより、支援員の意識向上に取組めた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・保護者へのアンケートで「支援員の支援により子どもに変化があった」との回答が87%いることから、支援員の配置により学校生活や学習上の困難の改善が図られている。一方で、「コロナの影響で学校に行かないからよく分からない」や「支援員と関わったことがない」などの回答があったことから、コロナ禍で学校に来れる機会が少なくなった現状でも、保護者との連絡体制が充実できるような体制整備が課題である。 ・保護者の要望も多様なため、支援員ごとの支援の偏りや差をなくし、支援に一貫性を持たせられるよう、スキルアップや情報共有を徹底する必要がある。	・支援員を対象とした研修会を定期的に開催することや特別支援教育主任教諭を中心に、個々の情報や多様な障がいなど、これらの支援方法に関する知識を共有することで、支援方法の偏りを防ぎ、支援の質の向上を図る必要がある。 ・対象児童等が安心して学校生活を送れるよう、学校と保護者が密に関わりながら個々に適した支援を行える体制を構築する必要がある。
今後の取り組み方針		
・支援員の資質向上のため、支援員を対象とした研修会の開催や情報共有の場を多くし、人材育成に取り組む。 ・三者面談等で支援員を同席させる機会を設けるなど、保護者との連携を密に取りながら、支援体制の充実に取り組む。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>42,727</td><td>39,331</td><td>31,464</td><td>7,867</td><td>3,396</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	42,727	39,331	31,464	7,867	3,396
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
42,727	39,331	31,464	7,867	3,396										
<pre> graph LR A[北中城村 39,331千円] --> B[報酬職員手当旅費 39,331千円] B --> C[報酬 34,323千円] B --> D[職員手当 4,407千円] B --> E[旅費 601千円] C --- C1["特別支援教育支援員 (北中城小学校7名・島袋小学校3名・北中城中学校4名・北中城幼稚園4名)"] C --- C2["ほか、夏休み等に係る対象外経費: 3,032千円"] D --- D1["特別支援教育支援員 (北中城小学校7名・島袋小学校3名・北中城中学校4名・北中城幼稚園4名)"] D --- D2["ほか、夏休み等に係る対象外経費: 364千円"] E --- E1["特別支援教育支援員 (北中城小学校7名・島袋小学校3名・北中城中学校4名・北中城幼稚園4名)"] </pre>														
資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明											
資 使 途 の 流 れ 、 費 目・	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支援員は、面接を経て、経験や業務に対する意欲がある者を採用しており、妥当であると判断する。 ・予算規模については、村規則等に基づき積算しており妥当であったと判断する。 ・児童生徒が不在の長期休業期間等は対象外経費としており、費目や使途は事業目的に即したものであると判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-②	学習支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成27～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	学習の遅れがちな児童生徒に対する支援を行うため、村立小中学校に学習支援員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	予算の状況	(a)当初予算額	4,881	5,406	4,590	5,410	7,313
		(b)予算現額	4,632	4,607	4,326	4,695	7,105
		(c)増減額(b-a)	▲249	▲799	▲264	▲715	▲208
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	4,632	4,607	4,326	4,695	7,105
	B.執行済額		4,423	4,556	4,326	4,695	7,105
	うち交付金充当額		3,538	3,644	3,460	3,756	5,684
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		95.5%	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		夏休み等の長期休業中の勤務実績分を補助対象外経費としたことや勤務実績を踏まえ、208千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	学習支援員の配置	目標	(小学校:2人 中学校:1人)	(小学校:2人 中学校:1人)	(小学校:2人 中学校:1人)	(小学校:2人 中学校:1人)	
		実績	小学校:2人 中学校:1人	小学校:2人 中学校:1人	小学校:2人 中学校:1人	小学校:2人 中学校:1人	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	小中学校すべてに支援員を配置することができ、活動目標を達成したことで、事業を円滑に実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	沖縄県学力到達度調査における平均正答率30%未満の割合の減少 小学5年生:算数(8.9%以下) 中学2年生:数学(32.8%以下)	目標	()	小5算数:18.5%以下 中2数学:37.6%以下	小5算数:18.5%以下 中2数学:37.6%以下	小5算数:8.9%以下 中2数学:32.8%以下	()
		実績		小5算数:13.4% 中2数学:29.9%	小5算数:15.0% 中2数学:23.1%	小5算数:29.6% 中2数学:32.7%	
	沖縄県学力到達度調査における無答率の割合の減少 小学5年生:算数(8.9%以下) 中学2年生:数学(11.1%以下)	目標	()	小5算数:6.8%以下 中2数学:10.5%以下	小5算数:6.8%以下 中2数学:10.5%以下	小5算数:8.9%以下 中2数学:11.1%以下	()
		実績		小5算数:2.6% 中2数学:8.0%	小5算数:6.5% 中2数学:9.8%	小5算数:12.0% 中2数学:6.8%	
	進捗状況説明	・平均正答率30%未満の割合については、小学校で目標値を達成できなかったものの、中学校では成果目標を達成しており、本事業での成果が概ね見られた。 ・無答率の割合についても、小学校で達成できなかったが、中学校においては昨年度よりも改善しており、成果目標を概ね達成している。 ・目標が未達成のものはあるが、学習支援員によるチームティーチングにより、学習状況が十分でない児童生徒への声掛けが増え、個別指導を充実することができた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・学習支援を必要とする児童生徒は年々増加傾向にあり、個々が異なる課題を抱えていることから、それぞれに応じた教材研究やきめ細かな指導が必要となる。 ・新学習指導要領で「主体的・対話的な深い学び」のある授業が求められており、その中で、毎年度継続しての雇用が難しい支援員がどのような支援をしていくのが課題となっている。 ・小学校無答率について、沖縄県平均が昨年度よりも6%増加しているが、村は5.5%増と県平均増加率を下回っており、一定の成果といえる。 ・小学校の平均正答率30%未満の割合は2年連続増加しており、基礎的・基本的な学習内容や学習習慣が身についていない児童が増えていると考える。	・学習支援を必要とする児童生徒について、担任、教科担任、特別支援教育主任教諭、特別支援教育支援員等と連携し、組織的な授業改善を行い、授業課題と家庭学習の連動による個に応じた学習支援を実施することにより支援体制の充実を図る必要がある。 ・学習支援員も新学習指導要領の趣旨を理解させる必要がある。 ・ICT機器の活用による視覚的に分かりやすい授業の研修、答えの導き方や問題に対する読解力、児童生徒が理解しやすい教材作成など、これまで以上に研修や教材研究の充実を図ることで、基礎的・基本的な学力の定着に繋げる必要がある。
今後の取り組み方針		
・一定の成果は出ていることから、引き続き全小中学校に学習支援員を配置し、基礎学力の向上に向けた取組を強化する。 ・本村の「キャリア教育」を視点においた教育活動の実践に沿って、「計画的」「自主的」な学習を行えるよう、担任教諭と支援員によるチームティーチングによるきめ細やかな指導・学習支援に努め、適切な学習支援や学校課題の解決につなげていく。 ・引き続き、各学力調査の分析をもとに課題のある単元や問題、つまづきの原因や指導方法の課題等について支援員も含め職員間で確認し合う場を積極的に持つ。 ・ICT機器活用に関する研修会を開催し、児童生徒1人1台の端末を上手に活用した授業展開ができるよう取り組む。		

資金の流れ														
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7,544</td><td>7,105</td><td>5,684</td><td>1,421</td><td>439</td></tr> </tbody> </table> 北中城村 7,105千円 報酬 職員手当 旅費 7,105千円 報酬 6,115千円 〔ほか、夏休み等に係る対象外経費：398千円〕 職員手当 769千円 〔ほか、夏休み等に係る対象外経費：41千円〕 旅費 221千円 〔学習支援員（北中城小学校・島袋小学校・北中城中学校 各1名）〕 〔学習支援員（北中城小学校・島袋小学校・北中城中学校 各1名）〕 〔学習支援員（北中城小学校・島袋小学校・北中城中学校 各1名）〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,544	7,105	5,684	1,421	439
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,544	7,105	5,684	1,421	439										
資金の流 れ・費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支援員は、教員免許を有している者を面接を経て採用しており、妥当であったと判断する。 ・予算規模については、村規則等に則り積算しており、妥当であったと考える。 ・児童生徒が不在の長期休業期間等は対象外経費としており、費目及び使途は事業目的に即したものであると判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-③	児童生徒の県外派遣旅費等支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ		
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成29～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進		
事業内容	県外大会への参加を全児童生徒に等しく機会を与え、児童生徒の視野を広げるため、学校教育の一環として派遣されるものに対し、派遣費用を補助する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
	予算の状況	(a)当初予算額	2,537	2,537	2,440	2,440	
		(b)予算現額	3,177	4,231	4,511	350	
		(c)増減額(b-a)	640	1,694	2,071	▲ 2,090	
		(d)繰越額	-	-	-	-	
		A. 計(b+d)	3,177	4,231	4,511	350	
	B. 執行済額		2,853	4,231	4,511	332	
	うち交付金充当額		2,282	3,384	3,609	265	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		89.8%	100.0%	100.0%	94.9%	
予算の状況の説明		・新型コロナウイルス感染症の影響により、県外大会が中止となり、派遣する機会がなかったため、2,090千円を減額した。 ・不用額18千円については、実績に伴う執行残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	県外への派遣団体数	目標	(支援の実施)	(5団体)	(5団体)	(6団体)	
		実績	支援の実施	8団体	8団体	2団体	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣決定を受けても九州大会・全国大会が中止となった競技もあり、小学校では1団体(9人)、中学校では1団体(8人)のみの派遣となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	派遣された児童生徒の視野が広がったか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケート調査により、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		88.0%	95.1%	97.0%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	・大会派遣後の児童生徒の様子について、97%の保護者(派遣者17人)が、「視野が広がった」「積極的になった」など意欲が高まっていると回答し、目標を達成することができた。 ・学習意欲についても、全員が「とても向上している」「向上している」と答えており、県外大会への参加が学習面においてもモチベーションの向上に寄与していることが確認でき、児童生徒にとって効果が高い事業であると考え。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・補助制度の見直しにより、補助額の定額化等で事務手続きの簡素化に取り組んだことで、県外派遣日までに補助金を交付することができ、保護者の負担軽減が図れた。 ・教職員の協力により、本事業の目的等について保護者に対して周知がなされたことで、全員の保護者からアンケートの回答を得ることができた。	・引き続き、学校と連携し、本事業の目的や内容について周知を行うことで、アンケートの必要性等について理解促進に取り組む。
今後の取り組み方針		
・学校事務や教職員との連携を図り、引き続き、事業の円滑化に努める。 ・引き続き、県外大会に参加したことによる、児童生徒に与えた影響を確認するため、アンケート調査による効果検証に取り組む。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>702</td><td>332</td><td>265</td><td>67</td><td>370</td></tr> </tbody> </table> 北中城村 332千円 補助金 332千円 小学校 1団体 176千円 県外派遣補助金 ほか、村負担分(対象外経費)：.215千円 中学校 1団体 156千円 県外派遣補助金 ほか、村負担分(対象外経費)：155千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	702	332	265	67	370
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
702	332	265	67	370										
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・補助先への交付決定は、要綱等に則り行っており、妥当であると考える。 ・予算規模は村の規定に基づき適正な規模であった。 ・受益者負担額を1/2としており、負担割合は妥当であると考える。 ・費目・使途については、実績報告等で確認・精査しており、事業目的に即した必要なものであると判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-④	小中学生県外派遣支援(社会教育関連)事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ		
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成29～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進		
事業内容	村に在住する子ども達が等しく県外大会に参加する機会を与えることで、子ども達の視野を広げるため、村・県を代表して派遣されるスポーツ・文化活動に対して航空運賃を補助する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	494	494	950	950	
		(b)予算現額	886	940	616	950	
		(c)増減額(b-a)	392	446	▲ 334	0	
		(d)繰越額	-	-	-	-	
		A. 計(b+d)	886	940	616	950	
	B. 執行済額		886	940	616	9	
	うち交付金充当額		708	751	493	7	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	0.9%	
予算の状況の説明		不用額941千円については、新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣大会等が中止となったことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	県外大会等への派遣者数	目 標	(支援の実施)	(26人)	(50人)	(50人)	
		実 績	支援の実施	58人	40人	1人	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣大会等が中止となったため、小中学生の大会・文化活動等の情報収集を行ったが、1人のみの派遣となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	派遣された子ども達の視野が広がったか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケート調査により、本事業のあり方について検証する。	目 標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実 績		100%	100%	100%	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	保護者へのアンケートにて「視野が広がった」「目標を高く持つようになった」との回答があり、成果目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・新型コロナウイルスの影響による派遣大会の中止により、本事業を活用する機会が減少した。 ・補助金交付要綱を見直したことで、交付申請を簡略化することができた。	・各種大会や文化活動に関する情報収集に努め、学校やスポーツ少年団、クラブチーム等の各種団体に対しアプローチすることで、本事業の活用機会を創出する必要がある。 ・手続きの煩雑さから、申請をあきらめていた保護者等を取りこぼさないよう、交付要綱を簡略化したことを各種媒体を通して周知する必要がある。
今後の取り組み方針		
・ホームページ等の広報活動に加え、学校やスポーツ少年団、クラブチーム等の横の連携を通じた情報共有を行い、活用機会の拡充に取り組む。 ・交付要綱の見直し(申請の簡略化)について周知(ホームページ、広報誌等)に取り組む。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>18</td><td>9</td><td>7</td><td>2</td><td>9</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	18	9	7	2	9
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
18	9	7	2	9										
北中城村 9千円 補助金 9千円 選手保護者(1件) 9千円 (県外派遣補助金)														
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・補助先は、要綱等に則り交付決定を行っており、妥当であると考える。 ・予算規模は村の規定に基づき適正な規模であった。 ・航空運賃以外は受益者にて負担しており、負担割合は妥当であると考える。 ・費目・使途については、実績報告等で確認・精査しており、事業目的に即した必要なものであると判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-⑤	学校ICT活用支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
事業内容	Ⅲ-3-(1)						
効果発現年度	大型ディスプレイ等のICT環境を整備し、分かりやすい授業を実践することによる学校教育の質の確保や教員のICT機器の習熟度を高めることにより、児童生徒の学力・情報活用能力等の向上を図る。						
実施方法	□当年度 ■後年度(3年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	26,140				
		(b) 予算現額	22,425				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 3,715				
		(d) 繰越額	-				
		A. 計 (b+d)	22,425				
	B. 執行済額		22,425				
	うち交付金充当額		17,939				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		入札執行残により、3,715千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	
	大型ディスプレイの整備 (村立小中学校:普通教室、特別支援教室、特別教室)	目 標	(実施)	()	()	()	
		実 績	実施				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	計画通り、村立小中学校3校に大型ディスプレイ及び画像表示装置(84台)を整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (R3年度)
	大型ディスプレイの整備完了	目 標	()	(完了)	()	()	()
		実 績		完了			
	【R3成果目標】 「ICT活用授業は分かりやすかった」と答えた生徒の割合	目 標	()	()	()	()	(80%以上)
		実 績					
	【R3成果目標】 「ICTを用いて分かりやすい授業ができた」と答えた教職員の割合	目 標	()	()	()	()	(80%以上)
		実 績					
	進捗状況説明	・計画通り、村立小中学校(3校)に大型ディスプレイ等の整備が完了し、成果目標を達成することができた。 ・今後は、活用方法についての研修等の開催に向け検討を行っていく。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・村立小中学校の普通教室・特別支援教室・特別教室に大型ディスプレイ等の整備を行えたことにより、学年・教科関係なく、ICT機器を活用した授業展開が期待できるが、反面、教職員のICT活用能力に個人差があり、ICT機器の活用に不安がある教職員がいる。	・教職員のICT機器活用のスキルアップを目指し、基本的、具体的な利用法を学べる研修等を開催する必要がある。 ・児童生徒が興味を引き学習意欲が高められるようなICT機器を活用した授業展開ができるよう研究する必要がある。
今後の取り組み方針		
・児童生徒や教職員へのアンケートを行い、大型ディスプレイ等の使用状況や効果の確認を行う。 ・教職員のICT機器の活用能力に差が生じないよう、研修の充実を図る。 ・貸出用タブレットと大型ディスプレイを活用した授業の先進的な事例などについて情報共有を行い、村内小中学校全体における利活用の幅を広げていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>22,425</td><td>22,425</td><td>17,939</td><td>4,486</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	22,425	22,425	17,939	4,486	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
22,425	22,425	17,939	4,486	0										
北中城村 22,425千円 備品購入費 22,425千円 株式会社 okicom 22,425千円 大型ディスプレイ等 ICT機器購入														
資金の 使途の 流れ、 点検 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・備品購入は、指名競争入札により落札した業者との契約であり、適切であると考える。 ・予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ・費用や使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和2年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-①	健康長寿のまちづくりアクション事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-ア	
担当部署名	企画振興課		事業実施(予定)年度	平成26～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進	
事業内容	村民の健康課題にアプローチし、多くの村民に運動習慣の啓発を図るため、健康イベントを実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	予算の状況	(a)当初予算額	7,446	5,602	4,984	7,353	7,114
		(b)予算現額	6,814	5,855	5,044	6,727	6,438
		(c)増減額(b-a)	▲632	253	60	▲626	▲676
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	6,814	5,855	5,044	6,727	6,438
	B.執行済額		6,345	4,986	4,058	6,711	6,433
	うち交付金充当額		5,076	3,988	3,246	5,369	5,146
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		93.1%	85.2%	80.5%	99.8%	99.9%
予算の状況の説明		676千円の予算減額については、健活フェスタ開催中止に伴う減額(▲176千円)、城ヨガオンライン開催に伴う減額(▲500千円)によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R2活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	健康サポートチームの開催	目標	()	()	()	(3回)	
		実績				0回	
	城ヨガ	目標	(10回)	(5回)	(2回)	(2回)	
		実績	10回	4回	2回	6回	
	健活フェスタ	目標	()	()	(2回)	(1回)	
		実績			2回	0回	
	健康マイレージの実施	目標	()	()	(導入)	(実施)	
		実績			導入	実施	
達成状況説明	・健康サポートチームミーティングについては、新型コロナウイルス感染防止のため未実施となった。 ・城ヨガについては全てオンライン対応とし、専門性の違う講師を招聘し、ヨガの内容やシチュエーションを工夫したことで、目標を達成することができた。 ・健活フェスタについては、新型コロナウイルス感染防止のため未実施となった。 ・健康マイレージは昨年度からの参加者も継続しながら実施できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R2成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	健康イベントへの総参加者数	目標	()	(507人以上)	(430人以上)	(500人以上)	()
		実績		1,027人	925人	689人	
	健康マイレージ事業参加者数	目標	()	()	()	(500人以上)	()
		実績				183人	
	進捗状況説明	・健康イベントの総参加者数は、オンライン開催で気軽に参加できたことで、目標を大きく上回る方に参加いただいた。 ・健康マイレージについては、30代後半が全体の18%と最も多く、ターゲットとしていた働き盛り世代の参加があり、当初の目的は概ね達成したと考える。 ・健康マイレージのポップアップ機能(利用者にイベント情報の告知)を活用することで、健康イベントの参加者数の増加に繋がった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	- 健康サポートチームについて、他部署の新型コロナ対応業務の増加により、開催することができなかった。 - 健活フェスタについても、イベント内容が体力測定であることから、オンラインによる実施が困難であったため開催できなかった。 - 新型コロナウイルス感染防止への配慮が求められ、これまで行っていた対面による事業運営が難しい状況にあるなか、城コガ等の健康イベントについては、創意工夫により成果目標を達成することができた。	オンライン開催でこれまで課題であった働き盛り世代へのアプローチが改善されたが、高齢者の方の参加が難しくなったことは今後の事業課題であるとする。今後はオンラインと対面の併用も検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
- 新型コロナウイルス感染防止を図りながら村民の健康づくりを推進していく施策の展開について検討する。 - 健康サポートチームについては、新型コロナに係るワクチン接種等の対応が落ち着き次第再開を検討する。 - 健活フェスタについては、実施内容を工夫し、開催に向け取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6,433</td><td>6,433</td><td>5,146</td><td>1,287</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 北中城村 6,433千円 報酬 2,363千円 会計年度任用職員報酬(1名) 2,363千円 〔 会計年度任用職員報酬 〕 職員手当等 333千円 会計年度任用職員期末手当(1名) 333千円 〔 会計年度任用期末手当 〕 旅費 49千円 会計年度任用職員通勤手当(1名) 49千円 〔 会計年度任用職員通勤手当 〕 委託料 3,688千円 NPO法人あやのふあ 498千円 〔 城コガ運営業務 〕 株式会社NTTドコモ 3,190千円 〔 健康マイレージ運営業務 〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,433	6,433	5,146	1,287	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,433	6,433	5,146	1,287	0										
資金の流 使途の流 点検・費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
資金の流 使途の流 点検・費 目・	○	支出先の選定方法は妥当か。	- 委託業務については村契約規則に則り契約を行っており、妥当であったと考える。 - 予算規模は、事前に見積り等を踏まえ積算しており、妥当であったと判断する。 - 費目および使途については、完了時に検査を実施しており、事業目的に即し必要なものであったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												